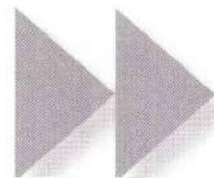


Scramble Shot



news

ミュンヘン・フィルの「仮住まい」 イザールフィルハーモニーがオープン

1985年に建設されたミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の本拠地ガスタイクが改修工事に入るため、5年間の仮住まいとして建設されたイザールフィルハーモニーが10月8日にオープンした。豊田泰久氏が手がけた音響のすばらしさに、「改修せず、このホールを使おう」という世論すら出ている。

オープニング・コンサートの3日目である10日に所見したが、数日前に3G+（陰性証明書はPCR検査のみ有効）に切り替える代わりに収容可能人数を増やしたからか、入場時の証明書チェックのために、開演30分前でもすでに複数の入り口に大勢の聴衆が群がっていた。

黒地の木肌を生かした舞台に首席指揮者のヴァレリー・ゲルギエフが登場すると、まずはこのオープニングのためにティエリ・エスカイシュに委嘱した《Araising Dances》を披露。美しいヴァイオリンとヴィオラのソロにタンゴの要素が聴かれる、グルーブ感あふれる曲だ。続いてダニエル・トリフォノフをソリストに迎えたベートーヴェン「ピアノ協奏曲第1番」（最初の2日間は「第4番」）は、好奇心にあふれた若いころのモーツァルトそのもののような躍動感ある演奏を聴かせた。デュティユー《メタボール》を格好よく締めくくったあとは、シCHEDリン《封印された天使》の「第1曲」で、ミュンヘン・フィルハーモニー合唱団の透明な歌声が魂の清涼剤のように作用した。最後はラヴェル「《ダフニスとクロエ》第2組曲」で最高に盛り上がったオープニング・プログラムとなった。（中 東生）



イザールフィルハーモニーのオープニング・コンサートから
© Tobias_Hase